立教大学ラテンアメリカ研究所主催公開講演会

封印されたアンデスの嗜好品コカ

―欧米の科学と政治に翻弄される伝統文化―

「コカ」と聞くと、多くの人はコカインやコカ・コーラを思い浮かべるかもしれません。しかしアンデスの人々にとって、コカ葉はそれだけではありません。何千年もの間、疲労や空腹をしのぐ嗜好品として、またパチャママへの供物、伝統医療、社交、占いなど、暮らしのさまざまな場面で使われてきました。本講演では、アルゼンチン北西部を中心に、実際にどのようにコカ葉が消費され、受け継がれているのかを紹介します。その一方で、植民地支配、欧米におけるコカインの商品化、20 世紀の国際的な麻薬規制によって、「聖なる葉」がなぜ「麻薬」と結び付けられるようになったのかをたどります。身近な「嗜好品」という視点からコカを見直すことで、科学や政治、経済が文化の見え方をどのように変えてきたのかを考えます。

日時 2026 年 **12** 月 **5** 日（土） 17:30~19:00

場所 立教大学池袋キャンパス
7号館1階 7101教室　＆　Zoom

申込

対面参加（定員200名）
https://s.rikkyo.ac.jp/1205c

オンライン（定員300名）
https://s.rikkyo.ac.jp/1205on

講師



井垣 昌（いがき あきら）氏

早稲田大学法学部・理工学部、獨協大学国際教養学部ほか非常勤講師。主な関心分野は、人類学、異文化接触・異文化コミュニケーションなど。主な関心テーマは、エスニシティ、先住民、アンデスの社会文化、アルゼンチンの社会文化。ボリビア民族舞踊の踊り手としてアルゼンチン在住ボリビア系移民コミュニティの祝祭に歴年参加。主な論文・共著に、『現代ラテンアメリカ社会を知るための47章』（明石出版）、「人新世のためのアマゾンからの想像―脱人間中心的なエスノポエティックの創造に向けて」（『マテシス・ウニウェルサリス』）などがある。



問合先：ラテンアメリカ研究所事務局　late-ken@rikkyo.ac.jp